

楽団灰ホトラ

企画書 及び うた戯曲集一稿 202207

作成者  
荒木聡志

© 2022 Satoshi Araki

## ■改名と分岐

演劇する集団灰ホトラは、「楽団灰ホトラ」と改名し、今後は音楽の領域で活動するチームへ変更する。演劇作品の上演は行わない。発表される作品は全て「うた」「楽曲」「音楽」などと呼ばれるものになる。

作品は、口語的な発語、会話や語りの声を用い、これを音楽的に構成した楽曲となる。これらをネット上、ライブ等で披露していく。

これは、灰ホトラがこれまでの演劇活動の中で見出してきた、言葉や発語にまつわる様々な発見を、音楽の領域上で結実させようとするものである。

## ■どんな音楽か

「テンポの良い台詞で状況が高まっていく場面」「掛け合いの中のリズム感や声質が小気味良く聞こえてくる場面」など、演劇を観ていて「音楽のようだな」と感じることは珍しくないだろう。台詞の内容もさることながら、音の集まり方や流れ方が注意深く演出され、良い聞こえを持っていると感じるシーンのことだ。

そうした「音楽的に感じる劇のシーンを抽出し、より厳密に拍や音階を管理し、音楽トラックと合わせて、楽曲に見立てる」というのが、楽団灰ホトラの活動の起点となっているアイデアである。

尤も、実際は戯曲化（うた戯曲と呼ぶ）する時点において、言葉のやりとりが音楽的に結びつくように意図的に配置されることになるから、「劇のシーンから抽出」とは異なっている。またパフォーマーはそこで、演技ともまた違った、作品との関わり方を必要とされることになるだろう。

灰ホトラはこれまでも、言葉の意味と響きを等価に扱うようにして、舞台上に新しい音楽的劇言語を現そうとしてきた。今後の活動はその延長線上で大きく音楽側に舵を切ったもの、つまり「音楽的な演劇作品」から「演劇的な音楽作品」への変化だと捉えても間違っていないと思う。

とはいえ、今後発表する作品は、音楽としか、うたとしか呼びようのないものでなければならぬと考えている。ジャンルの狭間を流浪する曖昧さを超え、より強いコンセプトを立ち上げた。

## ■具体的な楽曲制作方針

現時点で判然としている、作品を形作る幾つかの要素を箇条書きし、具体性を上げていきたい。

特に、「これは演劇ではない」という点については常に留意すべきであり、努めて自覚的であらねばならない。

- ・ラップのようではない。ことばはテンポ、ビート、韻（その他ラップの発語の様式）に支配されない。
- ・歌唱のようではない。ことばは所謂メロディに支配されない。
- ・詩の朗読のようではない。口語による会話やモノログを日常的身体性を用いてうたっていく。
- ・演劇のようではない。社会や思想、個人や関係の、ごく限られた一部分を通してしか表現しえない。総合芸術としての演劇作品と比べると、より狭い範囲におけるシークエンス、ニュアンスの表現となる。
- ・漫才やショートコントのようではない。展開のひとまとまりを正確に伝えることが目的ではない。比喩が広がり、繰り返しうたわれる作品を夢みている。
- ・広告のようではない。広告の纏う、沢山の消費を促す為に洗練された諸要素を無自覚に扱わない。ことばは対象に向けて遠回りをするような時が少なくないと思うから。
- ・そうはいつでも、留まらないようにするならば、それらの表現ジャンルを無邪気に横断する。恐らく「どの表現ジャンルでも捉えにくい曖昧な地点、視座」にあるものを扱おうとしている。
- ・作品の長さは、概ね5分以下の、流通している音楽の尺を踏襲する。
- ・基準となるbpmはあっても良いが、「bpm<口語の感覚」を基本とする。音階は相対音階。
- ・先鋭的、前衛的であることは目標とならない。物語、音楽、演技、発声、日本語などの要素に、極端な解体や抽象化を与えない。市井に鳴る音楽を聞きたい。
- ・ことばあそびを安易に音楽的なものとして扱わない。それは幼児性に親しい。
- ・フレーズの反復は度々行われる。楽曲を具象的なイメージに落とし込み、出現させ、聴き手と対面しようとする。
- ・発語する人のことは当然、役者とは呼ばない。歌手、ボーカルでかまわないとも思うが、パフォーマーと呼ぶのが自然かもしれない。大半の音楽（楽器）がそうであるように、音源は拡声される。パフォーマーは基本的にマイクを利用する。

というように、「○○ではない」という説明でしか捉えにくいのが現状であり、下手したらそのことに本質がある可能性もあるものの、今後は自らの表現を一定程度手軽にカテゴライズする適切なことばが必要になるだろうと思う。

## ■制作、展望

現時点の制作的課題、展望を列挙する。（※は現時点で不明となっている課題）

- ・ 荒木が全曲の作詞作曲を担当。
- ・ コアメンバー、必要人員
  - 歌手2名（楽曲に応じてゲスト1名～5名）/演奏者（DJ）1名/音響1名/制作1名
  - 荒木は歌手以外の、いずれかもしくは全てを兼任。将来的には一つの部門を担当。
- ・ 発表形態
  - spotify、YouTube、ライブ
- ・ 収益
  - 会員制、ライブ、グッズ販売、楽曲収入、著作権収入、ワークショップ
  - インディーズを想定
  - ※コアメンバー4名の場合 目標年収
  - ※コアメンバーの拘束、給料体制の問題
  - ※助成金、スポンサー、クラウドファンディング
- ・ 動画
  - youtubeでは動画作品として発表。撮影、編集者未定だが荒木が兼任可能。
- ・ ターゲット
  - 世の中で流通、消費されている音楽のフォーマットに載せる
  - ※具体的なターゲット層の明確化
- ・ 短期、長期スパンでの活動展望
  - キャッチコピー「わたしたちの口遊ぶ（くちずさむ）うたは、まだ音楽と呼ばれていない」
  - 新しい音楽ジャンルのパイオニアになることを目指す
  - ※初期プロモーションの方針は
  - 初期にパフォーマーの為の「ことばの扱い方のフォーマット作り」は必要
  - パフォーマー主体で、「台詞をうたう」方法を作っていく時間
  - デモ音源を制作する期間を設定。数ヶ月から半年程度。
  - 「楽団灰ホトラ DEMOTAPE旬間」公開、ワークインプログレス
  - 活動告知、参加者協力者募集、意見交換
  - その後は、一曲当たり、「打ち合わせ、読み、リハ、録音」の、4日/10時間程度か
  - DEMOTAPE時の録音作品は、デモ音源にすぎない。パフォーマーのオーディション、奏者への依頼、エンジニアの起用などを経て、正式な音源を作成するのが目標
  - 5年、10年スパンでの展望。音楽界、演劇界、詩との関わり、海外進出等
  - 現状、荒木が「表現、作品について語る」かたちでは表にでないことを想定

## うた戯曲集 第一稿として

- ・当面の活動において披露する為の、10曲程度の歌をレパートリー化、持ち歌としたい。
- ・楽団灰ホトラの楽曲は全て「～のうた」という名称に統一される。
- ・基本、二人以上のセッションである。
- ・第一稿は仮設であり、DEMOTAPE期間に歌い進めながら加筆修正したい。
- ・以下の数曲はフラッグシップにできないかと考えている。

- わたし算のうた（リズム型）
- 彼岸たちのうた（コンセプト強、参加性有、シンプル）
- 甲乙のうた（リレー会話型、旋律一体型）（会話性の楽曲は他にもあるので（仮））
- 出会いと別れのうた（会話性）

### その他は以下

- なんだろなのうた（つぶやきモノローグ）
- わかっちゃうのうた（会話性）
- 月曜日のうた（会話性、あいので）
- 未来からのうた（シンプル）
- トランシーバーのうた（リレー会話型）
- 召喚のうた（説明型）

### 灰ホトラ既上演より

- はたらくひきこもりのうた（「3PO」より）
- はれのひのつかいみちのうた（「発熱する甕」より）
- ちけったれのうた（「HORNS!」より）
- 孔雀のうた（「発熱する家」より）
- 賽銭のうた（「賽銭むすめ」より）
- ごごみのうた（「わたしは最近太った」より）

※○は第一稿未収録

楽団灰ホトラ うた戯曲「わたし算のうた」

=	×人数
1+ 1+ 1+ 1 +	非リズム
右足1+ 左足1+ 右足1+ 左足1+	
1+ 1+ 1+ 1+	リズム化
1+1+ 1+1+ 1+1+ 1+1+ 右足1+ 左足1+ 右足1+ 左足1+	上下段同時
散 歩の1 =	×人数
道の1+ 空の1+ 風の1+ 緑の1+	5拍子
右足1+ 街並み1+ 左足1+ 人波1+	
右足1+ 街並み1+ 左足1+ 人波1+	
垣根1+ ポスト1+ コンビニ1+ 看板1+	
うどん屋1+ 電柱1+ 曲がり角1+ 交番1+	
神社1+ クリーニング屋1+ 交差点1+ 信号1+	
の赤色1	(信号が赤に)
+ スマホ1+ まだかな1+	非リズム
道の1+ 空の1+ 風の1+ 古傷1+ 鳥 1、2、3+	
飴玉1+ 空色1+	(信号が青に)
1+1+ 1+1+ 1+1+ 1+1+ 右足1+ 左足1+ 右足1+ 左足1+	リズム化
1+1+ 1+1+ 1+1+ 1+1+ 右足1+ 左足1+ 右足1+ 左足1+	
散 歩の1 =	
道の1+ 空の1+ 風の1+ 緑の1+ 右足1+ 左足1+ 右足1+ 左足1+	

右足のところに落ちてるガム をサ 1+	
左足のところに落ちてる軍手 をス 1+	
右からこっちに張り出してきてる枝 をス 1+	
左から飛び出してきた自転車おじいさん をサ 1+	
正面に浮遊してる点みみたいな虫の集まり をス 1+	
どっからこれなんの匂い? おでん? 1+	
右足で縦にべったんこにつぶれてる缶カラの円盤 をペーン 1+	
飛んでった円盤の脇を坊主頭 1、2、3、4、5、6、7、8、 野球少年 9+	
その後ろに女子高生 1+	
なんか昔のわたしに似てる子 1+	
昔のわたしによく似てる子の横顔 1+	
雨 1+	
昔のわたしにそっくりな子の 知らない鼻歌 1+	
雨1+ あの頃1+ 雨5+ あの頃1+	禁暗
雨10+ あの家1+ 雨100+ あの男1+	
雨1000+ 雨1000+ あの頃1+ 雨1000+	
街並み1+ 傘100+ 雨1000+ ずぶ濡れ1+	
父1+ 母1+ 犬1+ あの家1+	
喧嘩100+ あの西日あの天井あのぬいぐるみあの枕1+	
初恋1+ 夜遊び20+ 大喧嘩3+ 気まずい食卓30+	
後悔7+ 夢1+ 裏切り2+ 懺悔50+	
思い出1+ 1+1+1+1+1+	
波1+ 波1- 波1+ 波1- 波1+ 波1- 波1+	
あの家1+ 笑顔1+ 背中1+ お骨1+	
雨1000+ 雨10+ 雨1+ 雨1+ くしゃみ1+	非リズム

道の1+ 空の1+ 風の1+ 緑の1+	
飛行機1+ 飛行機雲1+	
右足1+ さよなら1+ 左足1+ それから1+	
街並み1+ 人波1+ 街並み1+ 人波1+	
人1+ 人1+ 人1+ 人1+	
1+ 1+ 1+ 1+	
1+ 1+ 1+ 1	
= わ たし = いち ぶ = わ たし	

※うたいては3人以上、一人は女性とする

※「+」は「足す」、「-」は「ひく」、「=」は「わ」と読む

以下（仮）

※「+」を手拍子 カスタネット



楽団灰ホトラ うた戯曲 「彼岸たちのうた」

わたしたちは互いに、離れている。

互いの体に触れることは一度もないか、二度とないだろう。

わたしたちに互いに、交わすことのできることはある。

互いの存在を認め、求めるための二つのことばがある。

人 おーい

人 なーにー

※2名以上とする 多い程良い

※5分程度の時間内で構成

- 1 ゆっくり
- 2 明度の上昇
- 3 音圧の上昇（人数、切実度（悲痛ではない）など）
- 4 1に戻る
- 5 再度3から更にクレシェンドして終わる

※トラックでは、ひとつの「おーい」、ひとつの「なーにー」毎に、一音階のみとする  
旋律禁止

楽団灰ホトラ うた戯曲 「甲乙のうた」

風鐸が鳴っている

甲乙 わたしの犬を置いていけ わたしの犬を置いていけ

甲 黙れ

乙 五月蠅い

甲 五月蠅い

乙 黙れ

甲 勝手だ

乙 間違っていない

甲 邪な

乙 我儘だ

甲 恥を知れ

乙 意味がない

甲乙 なぜ なぜ なぜだ

甲 その鈴を止めろ

乙 揺らすのは風だ

甲乙 おい

甲 結え

乙 狩れ

甲 編め

乙 耕せ

甲 汲め

乙 運べ

甲 作れ

乙 見張れ

甲 拾え

乙 集めろ

甲 洗え

乙 登れ

甲 歌え 踊れ 飾れ  
乙 研げ 守れ 戦え  
甲 わたしの  
乙 お前は

甲乙 わたしの犬を置いていけ

甲 五月蠅い  
乙 黙れ  
甲 黙れ  
乙 五月蠅い

甲 浅はかだ  
乙 愚かしい  
甲 狂っている  
乙 驕っている  
甲 許されない  
乙 助からない

甲乙 往ね 往ね なぜ なぜだ  
甲 その鈴が耳に触る 吊るしたのはお前だ  
乙 北風で一人でに鳴る  
甲乙 おい

甲 燻る  
乙 浮わつく  
甲 怠ける  
乙 逆上せる

甲 枷  
乙 檻  
甲 枷  
乙 檻  
甲 枷  
乙 檻  
甲 枷だ  
乙 檻だ

甲 遅すぎる  
乙 早すぎる  
甲 拗ねるな  
乙 吠えるな

甲 泣け  
乙 思え  
甲 泣け  
乙 叶えろ  
甲 泣け  
乙 なぜ  
甲 喚け

乙 わたしの犬を置いていけ なぜ  
草を塗り花を走り雲で笑った 昔の なぜだ  
甲 昔 実を浴び泉に洗い影で結んだ なぜだ  
わたしの犬を置いていけ なぜ なぜまだ お前はここにいる

乙 わたしはもうここにはいない  
甲 お前の吊るした喧しい  
乙 ずっと鈴は いつでも鳴っていた  
甲 わたしの犬を置いていけ  
乙 力が抜ける  
甲 呪われろ  
乙 星が昇っていく  
甲 終わりだ  
乙 星  
甲 北  
乙 星

甲乙 あの星を見る

乙 わたしの犬を置いていけ  
甲 這え 北へ 用はない  
乙 北だ 塵となったお前が鈴を鳴らすのを待っている

※一字一句、音楽トラックと同期

※発語の出力管理に注意 昂るの天井との距離を測る

楽団灰ホトラ うた戯曲「なんだろなのうた」

ひーまー ひーまー ひーまー ひーまー	3拍子/1音
ひーまー ひーまー ひーまー ひーまー きーみーがーいーなーいーきーみーがーいーなーいー ひーまー ひーまー ひーまー ひーまー ひーまー きーみーがーいーなーいーきーみーがーいーなーいー	
ほーじる ほーじる	
きょーしつのでつーくえのこーあなをほーじ/る・・・ほーじ	
きょーしつのでつーくえのこーあなをほーじる・・・ほーじる きょーしつのでつーくえのこーあなをほーじる・・・	輪唱 ※リピート
きーみーがーいーなーいーきーみーがーいーなーいー	
きーみーがーいーなーいー キーーンコーーンカーーンコーーン	
なーんだろなーんだろ	
なーんだろなー なーんだろなー なーんだろなー なーんだろなー	※リピート 「な」のみ高音
いーなーいーなー いーなーいーなー いーなーいーなー いーなーいーなー	※リピート いない「な」のみ高音
いーなーいーなー いーなーいーなー いーなーいーなー いーなーいーなー	3拍子崩壊
きーみーがーいーなーいーなー	
きーみーがーいーなーいーかーらー	

きょーしつをつーくえのこーあなをほーじる・・・ほーじる きょーしつをつーくえのこーあなをほーじる・・・	
いた あれ?	※上を途中で中断して
いたいたいたいたいた	速
くるくるくるくるくる	
こないこないこないこない こない	遅へ
なーんだろなー なーんだろなー やっぺらんないなー	
いや くる	※上を途中で中断して
くるくるくるくるくる くる?	
きたきたきたきたきた	
	間
声 目 手 匂い 声 目 手 匂い	
こーえー てー なーんだろなー なーんだろなー めー にーおい なーんだろなー なーんだろなー	
え?なに?	話かけられる

<p><u>なーんだろなー (途中から)</u>  え？ なに？ え？ なに？ うん え？ なに？ うんうん え？ なに？  いやうんなにべつに ほらなんかうんそう なんかべつにそうそう 大丈夫  大丈夫 え、なんか今朝いかなかったよね え？なにこれ？ これがなに？  うん机 なにべつにべつに なにもべつに大丈夫 ほじってないほじってない  うんなんかでも穴？ そう穴べつにそう ほじってるっていうか そうそうな  んか穴空いてるなって 誰かなんか多分先代の？ 先代からの穴っていうか？  空いてて机に なーんだろなーって なーんだろなーっていうか穴空いてんな  ーって ほじってるっていうか別にそのあのけっこう深くて なんかもしかして  貫通？ しそうだなとはちょっと思ってて なんかこうほじり進めていった  ら貫通するんじゃないかな？ でももしそのわたしが指でこうほじり進め  ていった時？ その指が抜けなくなっちゃったりしてもう二度と 二度と机  の小穴から指が抜けなくなっちゃうっていう もうそのまんま暮らしていくし  かないってなって？ それがもしちょうど左手の薬指だったりしたらなんか  もうこう結婚指輪的に？ 教室の机が結婚指輪になっちゃったりするってい  う 机が指輪状態で そんな指輪腕太くなっちゃうし 一体誰と結ばれたん  だお前っていうか？ もしかして地球のどこかにもう一人机の小穴から指が抜  けなくなった人がいて それがわたしの運命の人だったりして そうそうそう  そう 意味わかんないね</p> <p><u>キーンコーンカーンコーン</u>  あほらチャイムチャイム ほらほら授業始まるよ</p>	<p>慌て超早口</p>
<p>なーんだろなー    なーんだろなー                                  なーんだろなー    なーんだろなー</p>	<p>※リピート</p>

※3人以上

※終始意中の人に目線を合わせない、もしくはそれ以上にそっぽを向いている感

※一貫してワルツのリズム

以下（仮）

※メトロノーム使用

※一人指揮者になる（ほじってる感のある指揮）

※序盤あくび発音が入る

楽団灰ホトラ うた戯曲 「わかっちゃうのうた」

あ	ちょっと	ちょっと	聞いてよ	聞いてよ	ちょっと	ちょっと	聞いてよ	聞いてよ
お	ちょっと	なにになに?	聞いてよ	聞いてよ?	ちょっと	なにになに?	なんだよ	聞く聞く
うん	うん		うん		うん		うん	うん
なんだか	別にね	なんだか	別にな	でもでも	特にね	ほらほら	特にな	
どうした	別にな	どうした	別にな	でもでも?	特にな	ほらほら?	特にな	
	うん	うん	うん	うん	うん	うん	うん	うん
うん	あー	てか	あれ	でも	そう			
うん	んー	ほお	はあ	ふむ	へえ			
うん		うん	うん	うん	うん			
別に	特にね	そんなに	言うほどの	こともない	ようなどう	なんだろう	うん	うん
特に	別にな	あんまり	言うほどの	ことなの	かどう	かどう	なんだろう	な
							うん	うん
それがさ		まだ何も	言ってないよ	いや	聞いて	聞いてる?		
	わかるよ			いや	聞くよ	聞いてる		
				うん	うん	うん		
別にね	本当に	割合ね	たいして	言うなれば	言うなればよ			
特にな	実際ね	全然な	そんなに	ある意味で	例えるなら			
	うん	うん	うん	うん	うん	うん		
いや	それ	なんだけ	ど	いや	なんて	言うかな	いや	もっとも
いや	どれ	なん	だ	らう	な	いや	それ	の
				うん				
うん	まー	てか	あれ	でも	そう	こー	そー	あー
うん	やー	ほお	はあ	ふむ	へえ	どー	あー	そー
うん		うん	うん	うん	うん			
つまりさ		まだ何も	言ってないよ	色?	色	々	様?	様
	わかるよ			色?			様?	なな?
				うん		色		々?
								うん
あ	でも	でも	でも	でも	ただ	ただ	ただ	ただ
お	なに	なに	どう	した	あら	あら	おや	おや
うん					うん			うん
あの	その	いや	ほら	でも	でも	ただ	ただ	なん
どの	どの	いや	なに	そも	そも	どう	した	なん
ある	だろ	そう	でしょ	てか	もう	あれ	ほれ	ほれ
もち	ろん	ある	でしょ	それが	さ	つまり	は	お
		うん		うん		うん	うん	うん
あ	蚊	だ	蚊	だ	蚊	だ	(叩く)	それで
	蚊	だ?	蚊	だ	蚊	か?	パン	わかるよ
		ブン	ブン	プーン			うん	
								うん



普通に 大体	好みっていうか そうかも知れない うん	考え方があるし 色んなことがあるし うん	人それぞれだし 本当そうだし うん	ものによるし 全くだし うん
かも とか	とか かも うん	かも とか グミ? うん	とか かも グミ? うん	グミ え? グミ? グミの話? うん
グミ グミ	うん グミ グミ	え? うん この?	話? どの? 話? 今? 話? してる?	
ちょっとちょっとえ?なんで待ってグミの話?なにグミの話してんの?なにになにそうなの? ちょっとちょっとえ?ちょっと持ってグミの話?これグミの話してんの?なにになにどうなの? やっぱやっぱえ?ちょっと待ってグミの話?これグミの話なのかな?なにになにあってる?				
色? 色?	色々 様? 色	様々 様? 色	なグミ 々? 々	
なんで? グミ?	グミ? グミ?	グミ々 々	知らない なの?グミグミ々なの? 知らない	うん
あ お うん	うん うん	うん うん	うん うん	うん うん うん

※3人による

※全員、ことばが重なっていることに一切頓着しない

※合わせ前の1秒以下の間が重要

※興奮に向かわないこと

以下(仮)

※節目でホイッスル使用

楽団灰ホトラ うた戯曲「月曜日のうた」

テュララテュララテュララテュララ テュララテュララテュララテュララ	テュラの元ネタ 民謡「1週間」
仕事 行きたくない テュラ 学校 行きたくない テュラ 学校 行きたくない テュラ 仕事 行きたくない テュラ	
テュララテュララテュララテュララ テュララテュララテュララテュララ	
は なんか 噂によると 明日 月曜日らしいよ は なんか 噂によると 明日	人数回数 ディレイ
え えまさか えないでしょ え嘘でしょ え え えまさか えないでしょ え嘘でしょ え	「はい」 は掛け声では ない
ないない ないないないない はいはいはいはい テュラテュラ ないない ないない ないないないない はいはいはいはい テュラテュラ	
昨日は土曜日です で今日です 明日は 月曜日 はいはい はいはい はい	
はいはいはいはい ないないないない テュラテュラテュラテュラ はいはいはいはい ないないないない テュラテュラテュラテュラ	
は なんか 噂によると 一種間て 7日間らしいよ は なんか 噂によると 一週間て	
はいはいはいはい はいはいはいはい テュラテュラ そうそうそうそう 習った習った習った習った テュラテュラ	
月 水 金 日? はいはいはいはい 火 木 土 ないないないない	
月 金 日 日? うんうんうんうん 火 土 日 ぼいぼいぼいぼい	
日 日 日 日? うんうんうんうん 日 日 日 ゆめゆめゆめゆめ だから	
日 月 土 日? はいはいはいはい テュラテュラテュラテュラ 日 金 日 はいはいはいはい テュラテュラテュラテュラ	
日 日 月 金 土 日 日 テュラ 日 日 月 金 土 日 日 テュラ 日 日 月 金 土 日 日 テュラ 日 日 月 金 土 日 日 テュラ	
テュララテュララテュララテュララ テュララテュララテュララテュララ	

昨日は土曜日です で今日です 明日は 日曜日です	
はいはいどうしょ なにしよ 明日は 日曜日です	
は なんか 噂によると 一日中寝てると 逆に痩せるらしいよ テュラ は なんか 噂によると テュラ	
は なんか 噂によると は なんか 噂によると	
読書するより ぼんやりしてるほうが 頭にいいらしいよ テュラ テュラ	
は なんか 噂によると は なんか 噂によると	
海外旅行と 脳内海外旅行 ほぼ同じらしいよ テュラ テュラ	
は なんか 噂によると プリントで念じると 少し増えるらしいよ テュラ は なんか 噂によると テュラ	
は なんか 噂によると 宇宙って なんも考えてないらしいよ テュラ は なんか 噂によると テュラ	
テュララテュララテュララテュララ	
は なんかでも 噂によると 明日は 満月らしいよ は なんかでも 噂によると 明日は	
え えどうりで えやっぱり え感じてた え え えどうりで えやっぱり え感じてた え	
月感じてた 満月感じてた 正直感じてた 正直感じてた 月(げつ)感じてた 月曜日感じてた	
はいはいはいはい 仕事 学校 行きたくない テュラ はいはいはいはい 仕事 学校 行きたくない テュラ	
でも もしかして 待ってるのかも でも もしかして 待ってるのかな	
噂によると 寂しいらしいよ でも 噂によると 月曜日も でも	
満月曜日はいやだから 半月曜日くらいがいいな テュラ テュラ	
テュラ テュラ テュラ 満月は大きくて まん丸で こっち見てるから	
三日月曜日くらいがいいな いいか テュラ いいね いいよ テュラ	

テュララテュララテュララテュララ テュララテュララテュララテュララ	
は なんか 噂によると 明日 月 (げつ) 三日月曜日らしいよ は なんか 噂によると 明日 月曜	
はいはいはいはい 仕事 行きたくなくても 三日月くらいの はいはいはいはい 学校 行きたくなくても 月曜日なら	
テュララテュララテュララテュララ テュララテュララテュララテュララ	

※3人以上が望ましい

※冒頭 なにかばかなことで遊んでいる感じ

以下 (仮)

※19ページ頭から中盤まで 越後屋悪巧み感

楽団灰ホトラ うた戯曲 「未来からのうた」

未来からタイムトラベルしてきた「人ではないもの」の言うこと。

非人 ミ ラ イ カ ラ キ マ シ タ

ナ ク ナ リ マ シ タ

ア ア ア ア

サ キ マ シ タ

※複数人による

※各行 任意の回数繰り返し

※4分程度の時間内で構成

※1・基本全て短音

2・1音ずつ違う音程にすること

3・各自同じ音程を2回続けてうたわないこと

楽団灰ホトラ うた戯曲 「はたらくひきこもりのうた」 (「3PO」より)

ふわふわと あさの ちゅんちゅらと とりがなき あさだ あさだ あさだ あさだ  
ぼくは かれや かのじょや くさや そらや みずに あさを いて よるは まだだ  
ずっと さきだ ゆでた たまごの しるさと まるさが つるり ぼくも きょうを  
つるりと いこう じょうぶな きぎの あいだに あさだ ふうふうそよぐ かぜにのっかり  
あかあいいろの はなびらが ひら

きかいのうたう うたごえが まったくただしくまんなかに ささったまちで  
どむどむながれる くるまのながれ ちゅうっくらいに せのびして  
ぞうぞうと ひとのはたらく おとがする まりまりと ひとのこすれる おとがする  
きたいのならぶ しっかりな まちなみのなかの でんどうの しごと しごと しごと しごと  
しごと ぼくは かれや かのじょや ビルや ガラスや コンクリイトに やあを いて  
ひると すぎて しごと しごと ずれた やくそく ずれた つかれ ぞうぞうぞうぞう  
まりまりまりまり よるは まだか

しゃどうとほどうをくぎってわけるでっばった へいきんだいのうえをゆく  
おとこのこ おんなのこ そこにはいないともだちの はなし きょうをしめてくくったような  
あかいいいろの ゆうひがむこう

となりのまちの かじばにむかうサイレンとそれを追う となりのいえの いぬのこえ  
ぽきりと なった ゆびのおと よるは こだ よるは こだ

わった たまごの とがったしるさが きり ぬるいへやの すきまのほこり  
さらが かちゃり ぎゅうとふとんにくるまって たしか

ぼくは きのう けむり だった  
たしか ゆれる けむり だった  
ふわふわと あさをまって りくにおりた きょうをまった つちにおりた  
ちちも ははも けむり だった まあるいよるの まあるいつきに くすぶった  
けむりになって よるをこいだ きのうとおなじ けむりになるう  
けむりにねむる こどうになるう ふ ふ ふふ

しなだれかかる しらないひとを すべりおとして きっと  
ぼくは あしたを つるりと いこう

※複数人による

※パーカッションとのセッションを想定

※極端に早く、低く

楽団灰ホトラ うた戯曲 「はれのひのつかいみちのうた」 (「発熱する甕」より)

晴れ間 どうだろ どんどん晴れ間  
昨日のまんま 湿った上着 向かいの瓦がぴっかり光った どうだろな  
朝の旗 立ったか

晴れ間 どうだろ どんどん晴れ間  
育てた鉢植え 昨日のまんま 空気を集めて冷えてる靴べら どうだろな  
朝の旗 立ったか

車 何台走っただろな 道路に上乘せ染み付く轍 僕のバンパー凹んだまんま  
とっところ子供 一人 二人

晴れ間 どうだろ どんどん晴れ間  
十字路に 昨日のまんま まだある缶カラぴっかり光った どうだろな  
朝の旗 立ったか

前よりも広がった橋 いつもより刈り揃った木々 綺麗な人が笑ってる  
鹿沼土 赤玉と 調整済みのピートモス  
ブルーベリーを育てる為に 覚えた土の3種類 きっと育てて霞む目治れ  
夜の旗立ったか

死んだ外人 家畜の病気 木の枝に化ける虫  
新聞知らせる知らない世界が弁当箱に収まった  
粒立つおかずとおんなじ様子 どうだろな  
仕事つつく僕の並べた 品物つつくお客さん  
晴れ間 今頃 どうだろか  
午後の旗 立ったか

揺れた猫 軋む窓 こけしが動く  
すらすら働く仲間の話す明け方の 3だか4だかどうだろうな 揺らいだ地震  
僕はすらすら働く仲間を並べて 頭の中の 土手で野球

晴れ間 どうだろ どんどん晴れ間  
明け方たしか曇ってた 昨日のまんま 曇ってた  
揺れたら晴れたか どうだろな  
午後の旗 立ったか 午後の旗 立ったか

コンビニ出たところ　　なんでか曲がったまんまの地蔵のその隣  
なんでかずっとコラと犬　叱る人  
エンジン掛かったまんまの車で  
掛かったまんまのラジオは明日の天気予報が終わったところ　　どうだろな

立ったか今日の朝の旗　　立ったか今日の午後の旗  
僕とおんなじコンビニ袋をぶら下げて　　なんでか曲がったまんまの地蔵のその隣  
なんでかずっとコラと犬　叱る人

鹿沼土　赤玉と　調整済みのピートモス  
ブルーベリーを育てる為に　覚えた土の3種類　　きっと育てて霞む目治れ  
夜の旗　　立ったか

※ソロを想定

※bpm固定の音楽トラック作成済み

※下線部は合唱



楽団灰ホトラ うた戯曲 「ちけったれのうた」 (「HORNS!」より)

空 空 空

ちけったで 晴れ勝って 雲待った  
まるまる実 まるまる穂 踊る  
実り集めて みんなとがいいぞ

空 空 空

ちけったで 曇り勝って 雨待った  
ざらざら鈍色 もやもや 眠る  
縁 (よすが) どんよれ 一人でがいいぞ

空 空 空

ちけったで 雨勝って 晴れ待った  
土砂ぶっちゃ 泥蹴っちゃ 繋ご  
おさげ絞ってる あの子とがいいぞ

空 空 空

ちけった 土竜の巣に 死んだ爺婆が  
ちけった 川魚 一昨年死んだ子で  
ちけった 蕾の中 明日死ぬ鳥

ちけった ちけった ちけった ちけった

空も 恋も 運命 (さだめ) も 来世も

ちけった

※ソロを想定

※メロディ確定済み

※下線部は合唱